

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	文化財の近現代										
【授業の概要・目的】											
<p>現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産の評価をめぐるや、「仁徳天皇陵古墳」として世界遺産登録されようとする陵墓問題などにみられるように、密接に政治と関わっている。昨年に引き続き、日本近現代の特色を文化財から考えたい。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。こうした日本の文化財の有り様を近現代を通じて考えてゆきたい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。文化財の近現代について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・天皇制と文化財 ・日本的な文化の語り ・廃仏毀釈と文化財の破壊 ・1880年代の古社寺や旧跡の保存 ・正倉院御物・京都御苑・離宮の形成 ・陵墓の近現代 ・「日本美術史」と文化財保護 ・帝室博物館と古都奈良・京都 ・史蹟名勝天然記念物と20世紀の文化財行政 ・吉野山・奈良公園・嵐山の近現代 ・神苑の形成（伊勢神宮・明治神宮・橿原神宮） ・国民道徳と南朝史蹟・赤穂浪士の史蹟・神武聖蹟 ・伝説・物語と文化財 ・戦後改革と文化財の誕生 ・世界遺産と文化財保護法 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

今尾文昭・高木博志編 『世界遺産と天皇陵古墳を問う』(思文閣出版)

【授業外学習(予習・復習)等】

奈良や京都において、文化財の近現代に関わる巡見を希望者とする。

【その他(オフィスアワー等)】

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。